allcinema

猟人日記“狼”（1977）

ВИРІК

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 ソ連
時間 80分
初公開日 1981/11/21
公開情報 ソ連映画祭実行委員会

【解説】

非常に映画的に純度の高い引き締まった作品で、情緒の入り込む隙間など無いようなのだが、主人公の幼い娘が母に習った踊りを舞う場面などに透明な感傷がある。ツルゲーネフの短編集の一挿話『狼』の映画化。狼と呼ばれる森番は仕事に忠実で、附近の農民が罠を仕掛けに森を荒らすのを徹底的に取り締まり、彼らの反感を買っていた。それはその土地に迷った、領主の知り合いの貴族ですら厳しすぎると感じるほどだった。狼は嵐に遭った貴族を自分の娘の住む狭い掘っ立て小屋に案内した。極貧を絵にかいたような暮らしに貴族は驚くが、狼は不満一つ言うわけでなく、彼の“妻は？”との問いに、この生活に耐えきれず男をつくって出て行ったーーと答えるのだった。小屋には４０ｃｍ四方くらいの明り取りの窓一つあるきりで、実際、狼の住み家のよう。娘は母のいない寂しさに涙をこぼすが、父の朴訥な愛情を受けて、彼の小笛の音に合わせて可愛らしいダンスを披露する。朝になり貴族も帰り、また変化のない日常に戻るが、狼は罠の獲物を取り上げた農民に逆怨みされ、彼と仲間たちに袋叩きに遭う。一昼夜昏倒し、それでも立ち上がる狼だったが、領主たちの猟の流れ弾に当たり、あっけなく死んでしまう。ソクーロフ作品などにも通ずる、音の使い方の感覚に優れた美しい映画で、パラジャーノフの絶賛を受けた。

【クレジット】

監督 ロマン・バラヤン
原作 ツルゲーネフ Turgenev
脚本 ロマン・バラヤン
イワン・ミュライチュク
撮影 ヴァレン・カリュータ
音楽 ヴィタリー・グーブ
出演 ミハイル・ゴルボヴィチ
オレーグ・タバコフ Oleg Tabakov

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.